

# 教育プログラムの紹介と組み合わせ事例

複数のプログラムを組み合わせ、導入する高校が増えています

## プログラムの組合せ例1

コミュニケーション力の向上  
～高校生活を考える～働くことを考える

1 学期

- ・からだで感じる「コミュニケーションワークショップ」(4回)
- ・大学生と高校生活を考える①

1 学期

## からだで感じる「コミュニケーションワークショップ」

連続2コマ×3回以上

<NPO法人ドラマケーション普及センター>

コミュニケーション能力、表現力の向上を目的として、100種類以上のワークを組み合わせ、身体を使ったコミュニケーションを経験するプログラム

- ▶ 初回に「コミュニケーションの必要性」「社会が求める人材とは」の話
- ▶ 自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを受け取る。
- ▶ 発言、発表の経験を繰り返すことで、人前に出ることの抵抗感を少なくする。
- ▶ 自由な発想により、言葉の構成力を高める。

- ① 人間関係作り
- ② コミュニケーション能力の向上
- ③ 自己表現力
- ④ 他者と関わる経験を蓄積させる

主にこの四つの目的に合わせて、回ごとに生徒の様子や、雰囲気、変容を見ながら、学校の要望にマッチするプログラムに組み立てていきます。

◆最終回に2分間スピーチを行います。 「ロールプレイ模擬面接」(生徒が面接官、受験者、観察者の三つの立場を体験)のプログラムの追加実施も可能です。



### カスタマイズのポイント

- 年間計画の中に大学生や職業人の話を聞くプログラムがある場合には、その前に話が聞ける個人・集団の状態を作ることを目的に含め実施します。グループワークやディスカッションのプログラムがある場合には、その前に誰とでも話合いができる状態を作ることを目的に含めて実施します。
- 進路や将来に対する意識を高めたい場合、又は他のプログラムによって意識付けをした後には、2分間スピーチやロールプレイ模擬面接を行うプログラムが有効です。

2 学期

## 大学生と高校生活を考える／大学生と進路を考える

連続2コマ×1～3回

<NPO法人キッズドア>

- ▶ 年齢の近い大学生から、高校生活の過ごし方や勉強方法のエピソード、現在の大学生としての生活や将来の夢等について聞く。
- ▶ 質疑応答の時間を多くとることで、高校生がキャリアプランを具体的にイメージできるようにする。

■1クラスに複数の大学生が入り、違うグループで話すことで、生徒は複数の大学生の話を知ることができるプログラムです。ディスカッションしやすく、複数のモデルと出会えることで、多くの選択肢の中から、自分に合った進路等について考えることができます。

■高校の希望、授業回数によって、高校生活、進路、就職等、大学生が話すテーマや進め方を相談しながら実施しています。



プログラムには、社会人になるための基礎力を養成するもの、自己適性の理解や、複数回数で体験的な学習に取り組むものなど、様々な内容のものがああります。

学校として実施しているキャリア教育の年間計画に沿い、生徒の状況に合った内容のプログラムを組み合わせることで、効果が高まります。ここでは二つの例を紹介します。

## 2学期

・大学生と高校生活を考える②

## 3学期

・好奇心からつながる仕事マップをつくろう  
・Money Connection®

### 3学期

#### 好奇心からつながる仕事マップをつくろう

連続2コマ×2回

<13歳のハローワーク公式サイト(株式会社トップアスリート)>

- ▶自分の好きなことを書き出す個人ワーク
- ▶その中から一つのテーマを見付け、そのテーマに関係する仕事を書き出していく。
- ▶グループで互いにアドバイスし合い、仕事マップとして完成させる。

■自分の興味や得意分野から職業を考える中で、職業の多様性を理解し、様々な職業に関心をもつとともに、グループで話し合う中から多くのアイデアが出る経験を通して、コミュニケーションや、チームで取り組むことの楽しさを感じることができます。



### 3学期

#### Money Connection®

連続2コマ×1回

<認定NPO法人育て上げネット>

生きていくために必要な「お金」と「働くこと」についての基本的な知識をシミュレーションで学習するプログラム。働き方を選択するのは自分自身であり、将来を見据えた進路選択の大切さを確認することができます。

- ▶一人暮らしに必要な生活コストを知る個人ワーク
- ▶カードを使い、10年後の働き方についてシミュレーションするグループワーク
- ▶働き方(フリーター、派遣社員、正社員)の特徴を知る。
- ▶グループで感じたことについて意見交換

■個人ワーク、グループワークともに具体的な数字により考えさせる教材になっており、進行する中でグループでの話し合いが進み、率直な意見が出てきます。

◆他に、「モバイルコネクション」「ライフコネクション」のプログラムもあり、組み合わせて実施することも可能です。

生活費の内訳(項目)	金額	説明
家賃	約10万円	家賃を払う
水道・光熱費	約1万円	水道・電気・ガス代
食(食費)	約3万円	食費を払う
衣服費	約1万円	洋服・靴・鞆
交際費・娯楽費	約2万円	娯楽費・交際費
通信費	約1万円	通信費
交通費	約1万円	交通費
国民健康保険	約1万円	国民健康保険料を払う
国民年金	約1万円	国民年金料を払う
所得税	約1万円	所得税を払う
住民税	約1万円	住民税を払う
雑費	約1万円	雑費を払う

#### カスタマイズのポイント

- 事前打合せにおける先生からの提案を基に、外国籍の生徒等が理解できるように、生活コストのワークシートについて、振り仮名付き、図入りの補助シートを作成。従前の進め方より、生徒の理解促進と比較的スムーズな回答を実現しました。
- 授業最後に生徒が書く振り返りシートでは、自由記入の感想欄は少なくし、10年後の自分がどのようになっていきたいか、そのために今後の学校生活で取り組んでおこうと思うことは何か、を書き出させるステップを、アウトプットの機会としています。